

「哲学の道」から吉田山へ

京都で前から歩いてみたかったのが「哲学の道」である。南禅寺から永観堂を経て、すこし歩くと念願の「哲学の道」にたどりついた。この名は哲学者・西田幾太郎が思索にふけり、散策したことからきているという。疎水路の両端にきちんと整備された小道がつづいており、多くの人がゆっくりと歩いていた。新緑のなかに八重桜が見事に咲いており、じつに心地よかった。「哲学の道」と名づけられているだけあり、歩きながら思索にふけりたくなる感じであった。

道は銀閣寺あたりまで約2キロつづいており、貴重な「観光ルート」にもなっている。こんどは銀閣寺から永観堂の方に向けて歩いてみたい。人の多そうな銀閣寺を避けて、吉田山の方に向かった。



吉田山は高さ 125m であり、一体は緑地保全地区に指定されている。険しい山道を登ると、すぐに山頂にたどりついた。ここから大文字山を正面に見ることができ、涼しい風のなかで京都らしさが味わえた。山頂から下っていくと、

「紅萌ゆる丘の花」と書かれた石碑があった。これは旧制三高の逍遥の歌である。吉田山にはずいぶん昔に登った記憶があ



る。この近くに親戚の家があったことがあり、たしか中学の頃に登った。遠い昔の記憶をたどりながら、吉田山を下って京大キャンパスに向かった。緑豊かな山をキャンパス近くにもつ京大がうらやましくなった。



(2006年5月9日 記)

